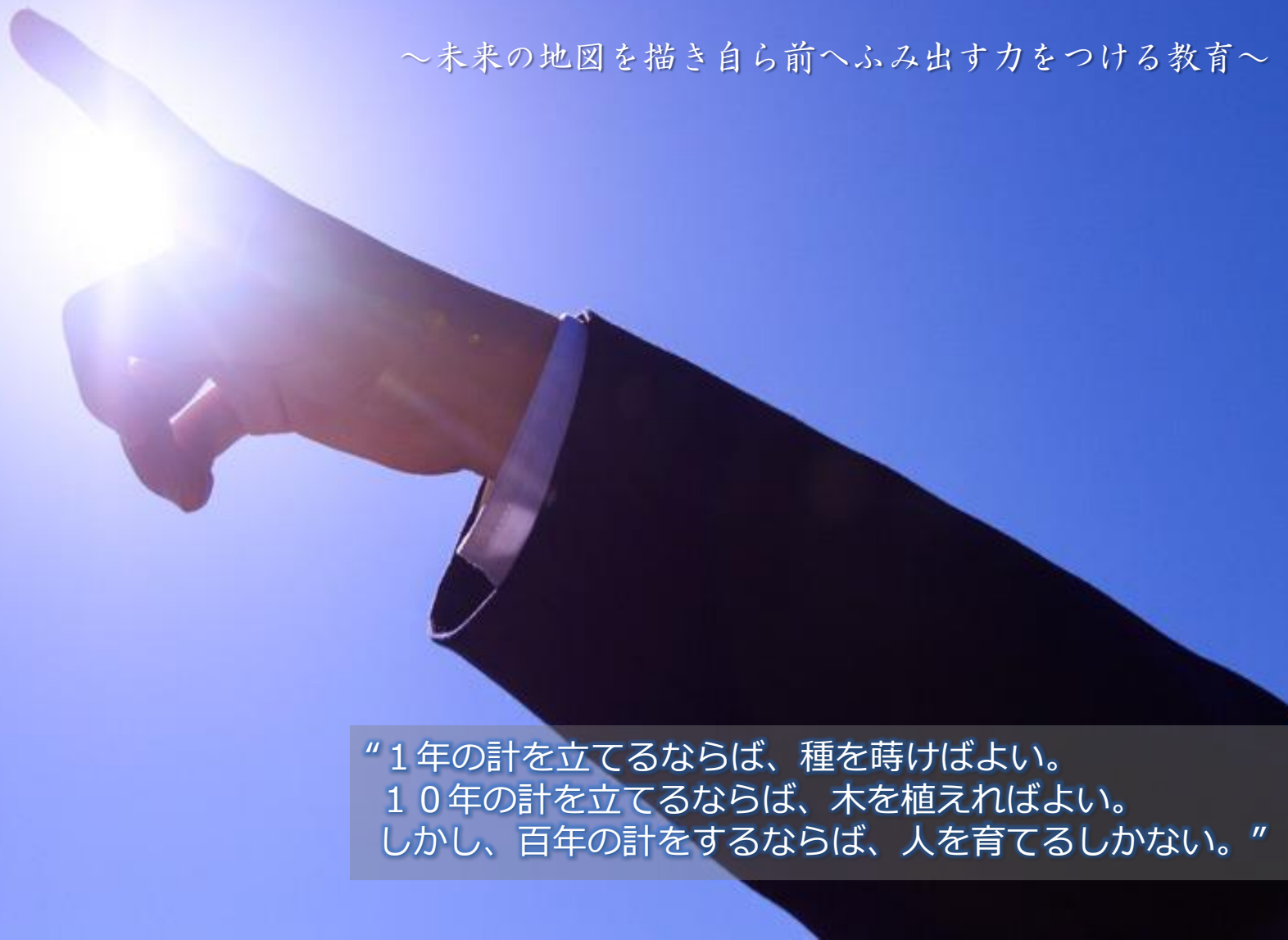


奈良市の新しい学びの プロジェクト

～未来の地図を描き自ら前へふみ出す力をつける教育～



“1年の計を立てるならば、種を蒔けばよい。
10年の計を立てるならば、木を植えればよい。
しかし、百年の計をするならば、人を育てるしかない。”



(写真 入江泰吉「東大寺大仏殿除夜」 入江泰吉記念奈良市写真美術館提供)

子どもたちが生きる未来の社会は、将来の変化を予測することが困難な社会であり、答えが一つとは限らない問いに直面することが予想されます。

平城京の時代から連綿と栄えている奈良は、世界に誇る伝統や文化と豊かな自然に恵まれ、日本最初の国際都市として今日まで発展してきました。東大寺の大仏は752年に完成して以来、二度被災しますが聖武天皇の思いが受け継がれ、みんなの力を集めて復興されました。一人一人の力は小さいですが、その力や思いを集めることで大きなことが成し遂げられることを先人は教えてくれます。

奈良市は、自分の幸せだけでなく、他人を思いやり、幸せな社会を創るために夢を持ち、それを実現しようとする子どもの育成を目指します。

そこで、子どもたち一人一人が答えが一つとは限らない問いと向き合い、粘り強く取り組んでいけるよう、

『未来の地図を描き、 自ら前へふみ出す力』

を身に付ける教育の充実を図ります。

授業改善の視点 「教え」から 「学び」へ

身に付けた知識や技能を生かし、子どもたちが自ら学び、自ら考える教育へ転換することで、生涯にわたって主体的に学び続ける力を育む

キャリア教育の視点 教室と社会を つなぐ

教室の中での学びが社会での学びとつながっていることを実感し、社会の中で出会う課題を他者と協働しながら解決し、よりよく生きるために必要な力を育む

授業改善の視点

「教え」から 「学び」へ

「もっと知りたい！」を大切に、学ぶ喜びや楽しさを実感させる教育



主体的に学ぶ授業を創造する
ファシリテーターとしての教員

子どもたちは、答えが一つとは限らない社会を生きていくことになり、従来の知識を詰め込むだけの教育では、これからの予測困難な時代に対応することが難しくなります。そのため、子どもたち一人一人が自らの人生を切り拓いていく力を付けていかなければなりません。

これまでのように、教員が知識やスキルを教えること（教え）に加え、子どもたちが自ら課題を見つけ、解決していくような主体的な学びを引き出す教育（学び）に取り組みます。

キャリア教育の視点

教室と社会をつなぐ

教室での学びが社会での学びとつながっていることを実感させる教育



【職場体験で学んだことを発表する生徒】



地域社会とともに
子どもたちを育む教育

子どもたちには、社会とつながった経験の中で、自らが学び続け、自分なりに試行錯誤し、その意見をもって他者と議論し、協働することを通じて、新たな価値を生み出していく力を育むことが大切です。

そこで、教える側が学びと社会との結びつきを認識するとともに、学びを教室の中だけで完結することなく、地域の方々や家庭の協力を得ながら、「教室の外」での学びに取り組みます。

【交流の集いで地域の方と地域物産をアピールする生徒】